



『男女共同参画週間』

6/23(火)
~29日

知らないと損する男女共同参画 ~男女共同参画ってなに?なんで必要なの?~

皆さんは「男女共同参画社会基本法」って聞いたことがありますか?

今から21年前の平成11年6月に制定された法律で、簡単に言うと、「女性は家で家事育児、男性は外で働く」という古くからの習慣を強制することなく、「男女平等な社会にしよう!」という法律です。

▼現状 1

日本の男女格差についてご説明します。実は日本は世界からみると男女の格差がとても大きい国なんです。世界経済フォーラムが公表した2019年のジェンダーギャップ指数(男女格差の度合いを示す指数)ではなんと**153カ国中121位と過去最低を更新してしまいました。**

分野別にみると、政治と経済で男女格差が大きく、特に政治の分野についてはワースト10に入っています。この数値の判定要素は「衆議院の女性議員比率」、「内閣の女性閣僚比率」、「女性元首の在任年数(過去50年)となっていますが、2019年12月のデータでは、衆議院の女性比率は465人中、**46人と約1割しかいないのが現状です。**

政府は、男女共同参画基本法の行動計画である第4次男女共同参画基本計画(H27策定)において、男女の格差を是正するため「指導的地位に女性が占める割合を30%程度とすること」と定めていますが、残念ながら薬剤師と国の審議会等委員以外ほとんどの分野で達成できていないのが現状です。

●日本のジェンダーギャップ指数の推移

	2010年	2015年	2019年	
総合	94/134	101/145	121/153	
内訳	政治分野	101/134	104/145	144/153
	経済分野	101/134	106/145	115/153
	教育分野	82/134	84/145	91/153
	健康分野	1/134	42/145	40/153

※スイスのシンクタンク「世界経済フォーラム」が2006年から毎年発表

単に女性が外で仕事をするということではなく、**男女ともに家庭のことも担い、子育てしながら働くこともできるような社会にすることが肝心です。**



男性が家事育児に参加しやすい社会になることで、女性が働きやすくなります。そして、女性の活躍が推進され、女性の声が社会に反映されることで、今までよりもっと**女性や子どもたちが暮らしやすい社会**になります。さらに、男性が家事育児を経験することにより、**誰もが暮らしやすい優しい社会**になります。

男性と女性が、職場で、学校で、地域で、家庭で、**それぞれの個性と能力を発揮できる「男女共同参画社会」を実現**するためには、政府や地方公共団体だけでなく、市民のみなさん一人ひとりの取り組みが必要です。



▼現状 2

次に少子高齢化に伴う現役世代の減少から、あらゆる分野における女性の活躍が必要とされており、経済についても、もはや、女性の参画がなければ成長が見込まれないと言われています。

この機会に、男女のパートナーシップについて考えてみませんか?

また、オンライン授業では、音声だけで内容を理解しなければなりません。オンライン授業に参加して初めて、顔を合わせて授業を受けていると

合せて授業を受けていると、音声が聞こえ、顔を見ることができ、質問もでき、授業を受けることはできませんが、自習とは違ってリスニングやスピーキングをすることは、半年間現地で学んだことを忘れないためには重要なことだと感じました。

厦門理工学院では現在、オンライン授業を実施しており、私も参加しています。学校でみんなと授業を受けることはできませんが、自習とは違ってリスニングやスピーキングをすることは、半年間現地で学んだことを忘れないためには重要なことだと感じました。

留学記 ニイハオ!



アモイ
中国厦門市
その3
第18期 海外留学生
末吉 りんか

令和2年度の宜野湾市海外留学生派遣事業につきましては、新型コロナウイルスの影響を考慮し、残念ながら中止とさせていただきます。来年度以降の動向につきましては、決まり次第、市報等でお知らせしていく予定です。今後とも、引き続き本事業をよろしく願っています。

厦門理工学院の友人は、オンライン授業を受けていると、音声が聞こえ、顔を見ることができ、質問もでき、授業を受けることはできませんが、自習とは違ってリスニングやスピーキングをすることは、半年間現地で学んだことを忘れないためには重要なことだと感じました。

宜野湾市の皆さん、こんにちは。中国の厦門へ一年間、留学させていただいています末吉りんかです。

新型コロナウイルスの影響で、私は1月に沖縄に帰ってきて、厦門に戻れないまま引き続き沖縄で待機しています。冬休みの1カ月ほど帰省して、当然のようにまたすぐに留学生活に戻って、厦門の友人たちにも会えるだろうと考えていたので、想像もしていなかった現状にとっても心が痛みます。

厦門理工学院では現在、オンライン授業を実施しており、私も参加しています。学校でみんなと授業を受けることはできませんが、自習とは違ってリスニングやスピーキングをすることは、半年間現地で学んだことを忘れないためには重要なことだと感じました。

理工学院の友人は日本のことをとても心配してくれています。留学以前はスキルとして中国語を身につけることが一番の目的でしたが、厦門でたくさんの方と出会って、日本語が話せない人とも意思疎通ができる喜びを知りました。今は「理工学院の友人に会いたい」ことが厦門に戻りたい一番の理由です。本当にいつになるのか今のところは見通しがつきませんが、必ず厦門に行ってみようと思っています。楽しい日々を過ごすことができていることを願っています。

※市報ぎのわん7月号の「公民館においてよ!」では、喜友名区の掲載を予定しています。